

# 天文学とプラネタリウム

第74回



今月のお題

## 宇宙でつながる科学と神話



今年の夏も、六本木天文クラブ開催決定！

宇宙の魅力は天文学だけでも、星座神話だけでもありません。両者があるからこそ、宇宙の魅力なのです。

高梨直紘 (東京大学)

平松正顕 (台湾 国立清華大学)



www.tenpla.net

### 遺伝子組み換え作物とお米の神様

「遺伝子組み換え作物は、なぜ日本では受け入れられないのでしょうか？」

先日、たまたま参加していた講義でのひとこまです。先生は、遺伝子組み換え作物の専門家。科学的な仕組みとその安全性、諸外国での導入実績、そもそも食物の安全性とはなんぞやといったお話でたいへん勉強になりました。先生はこれだけ説明しても遺伝子組み換え作物を受け入れてくれない日本人の無理解を嘆いていらっしゃったのですが、ふと思ったのが“お米にも七人の神様”の話。多くの日本人にとっては、神様はたくさんいらっしゃるのが自然な感覚ではないでしょうか。当然、山にも川にも海にも神様がいるし、お米にだって七人の神様がいますという話も、そんなに違和感はないでしょう。

食べるという行為には、単にアミノ酸の補給やカロリー摂取といった即物的行為だけでなく、“力”を取り込むといった神話的な側面もあるように思います。そのように考えた時、そら確

かに科学的には安全かもしれないけど、神様がいたはずなのに中身は人間がいじくってしまっているお米は、あんまりありがたみがなあ…と興奮してしまう人も、かなりいるのではないかと、そこが遺伝子組み換え作物に対する忌避感情の根幹をなしているのでは？と思ってしまうのです。高等教育の充実のおかげで日本人の科学リテラシーはそこそこ高く、よく遺伝子操作の意味を理解しているからこそ、拒否反応を示してしまうというべきか…。

この解釈が正しいかどうかはじっくり検証してみないとはいませんが、まあ仮にそういう面もあったとしましょう。その場合、この日本人の気質は天文分野ではどのように働いているのでしょうか。私は、日本人が天文学好きであると同時に星座神話も大好きなことで、構図が同じであるように感じられるのです。互いに矛盾する神話的要素と科学的要素を気にせず一緒に取り込んでしまう、悪く言えば節操なし、良く言えば柔軟な思想を持った文化が日本にはあるのではないのでしょうか。科学的文脈でも神話的文脈でも受容しやすい天文学が日本で人気がある理由は、ここにあるように思うのです。



中世の星図より抜粋。これだって、天文学の魅力です

科学と神話はどのようにつながっているのか。このことは、天文学の魅力を広く伝える上で欠かすことのできない視点でしょう。単なる星座神話の世界に留まらず、人類の文化史の中で天文学宇宙はどう捉えられて来たのか。そういったことを意識しながら、天プラの活動も組み立てていきたいと思っています。